

(発行)2020年 9月24日 富士宮市社会福祉協議会 地域ささえあい係

つながりを切らない、孤立させない、 新しいつながりを考える情報を各地区社協へ発信!!

地区社協は歩みを止めない!

大宮地区社協 渡邊 仁さん



▲地域福祉への熱意を語る渡邊 仁さん

大宮地区社協(望月大和会長)は、令和2年度の事業計画で「三世代ふれあい交流会」や「推進委員研修会」などの3密が避けられない事業は、コロナウイルス感染防止の観点から中止としました。

同地区社協企画委員長の渡邊 仁さんは、コロナウイルス感染拡大により、地域活動が中止や延期される中で「今できること」や「これからできることを考え、つながりを途切れないようにしていきたい。」との思いから、企画委員会で(1)広報活動…地区社協が目指すことや、地域福祉の理解や地区社協活動を広く周知していくこと。(2)見守りネットワーク活動の推進…活動推進の手引きや各区での取り組みを発信していくこと。(3)寄り合い処やシニアクラブのサポート…スタッフのサポートや参加者への寄り添い支援をしていくことを企画委員会に提案し、了承されました。

渡邊さんは「今年度の事業計画は断腸の思いで中止を決定した。地区社協のメンバーが不安にならないように早く決断をした。こうすれば絶対大丈夫という方

法はないかもしれないが、今できることやこれからできることの方法を企画委員のみなさんと一緒に考えて実践していきたい。そして、実践を通じて地区社協や推進委員がいることを地域のみなさんに知ってもらいたい。」と語られていました。

渡邊さんは平成17年6月より15年に渡って地区社協を支えています。携わる中での気持ちは、「大変30点・喜び70点」とのこと。「大勢の人と巡り合い、話をするのが楽しい。イヤイヤな気持ちで取り組まなければ喜びの方が上回る」と笑顔で話されていました。

現在、地域活動が停止し、孤立や心身への影響、減収や失業による生活困窮などの新たな課題が発生しています。

しかし、この状況下にあっても、つながりが途切れることなく、お互いの暮らしを気にかけてながら、支え合うための方法として、「見守り」「居場所づくり」「つながりづくり」などを考えていく必要があるのではないのでしょうか。

渡邊さんがお話しされたように、こうすれば、絶対大丈夫という方法はないかもしれませんが、「今できること」や「これからできること」をみなさんと一緒に考え、感染症対策を取りながら前向きな気持ちで実践していくことが今一番大切なことではないのでしょうか。



▲企画委員会で今後の事業計画を検討